

# Catch the WAVES!

新潟県立佐渡中等教育学校  
学校だより 令和4年度4月号  
HP: <http://www.sado-ss.nein.ed.jp>

## 令和4年度がスタートしました!

令和4年度が始まりました。今年度は新型コロナウイルス感染症対策に配慮した上で、始業式・対面式ともに、3年ぶりに全校生徒が集まり、実施されました。感染拡大が止まらず、未だに感染対策を余儀なくされる状況の中でも、生徒はマスクを着用するなど感染症対策を行いながら、気持ちを新たに、前向きに活動に臨んでいました。全ての生徒にとって、新しい1年が始まります。感染症予防・対策と並行し、明るく全力で様々なことに取り組んでほしいと思います。



## 4月5日(火)始業式 校長講話

皆さん、おはようございます。まずは、生徒の皆さんが事故や病気など無く、今日元気な顔を見せてくれたことで本当に安堵しています。日々平穏無事なことが当たり前と考えていたことが、新型コロナウイルス感染拡大によりもろくも崩れ、コロナ禍3巡目の春を迎えます。改めて今までの当たり前前の学校生活が、いかにいいとおしいものでいかに大事なものであるかを考え、今後の学校生活一日一日、一瞬一瞬を大切にしていってほしいと思います。桜の蕾も膨らみ、春本番、新学期スタートです。冬を乗り越え、草木が勢いを増すこの時期は気持ちか新しくなり、新入生でなくても何か新しいことを始めたいという意欲がわいてきます。これまでの自分と違う自分でいたいと思う人にとっては、理想に向かってスタートする、あるいは生まれ変わる、非常によい時期です。

4月から大きく変わることを2つ、年明け1月の校長講話で予告しました。

1つめは、成年年齢が現行20歳から18歳に引き下げられることで、順次、誕生日を迎えた時点で達することになります。親の同意を得なくても自分の意思でクレジットカード、アパート、スマホ等の契約、男女とも結婚ができるようになります。一方、飲酒や喫煙、競馬・競輪等はこれまでと同様20歳にならないとできません。投票権は平成28年6月以降の選挙から既に18歳に引き下げられており、6年生の中には5月29日投開票の県知事選で経験する人が出てきます。

特に深刻な被害が、友人やSNS経由で暗合資産(仮想通貨)や海外事業への投資話等のマルチ商法です。「誰かを勧誘すれば報酬が得られる」と持ちかけられ結局お金を失い、解約できなくなります。お金は簡単に手に入るものではなく一生懸命働いて得るからこそ価値のあるものです。甘い言葉・誘惑に要注意、無知は罪、格好のカモとならぬよう「公共」や「家庭基礎」等、消費者教育・金融教育の授業を通じて大人として社会を構成する一員として、自覚を高め責任をもちましょう。

2つめは、学習指導要領(教育が一定水準保てるよう文科省が定めている教育課程(カリキュラム)の基準)が改訂されました。既に進行中ですが中学校が令和3年度入学生である前期生2年生から、高等学校が令和4年度入学生に当たる後期生4年生から、一部科目名、教科書も変わり学習評価も改善されます。国語では「言語文化」「論理国語」、地理歴史・公民では「地理総合」「日本史探究」「公共」等、英語では「英語コミュニケーションI」「論理・表現I」等です。その他「OO探究」という科目が増えたのですが、いずれも主体的・対話的で深い学びが必要となり、先月2学期終業式で「探究学習の大切さ」を強調したのはこの伏線でもありました。探究的な学びをとおして、思考力や判断力、表現力を養うことがますます重要になっていきます。先生方による日々の授業を大切にしていきたいと思います。

さて、年度初めの始業式でもあり、今日は皆さんに理想的な生き方・あり方を考えてもらいたく、私の大好きな詩、宮沢賢治の『雨ニモマケズ』を紹介します。幼稚園や小学校時代に暗唱して発表したことがある人もいられるかもしれません。そもそも『雨ニモマケズ』は、宮沢賢治自身が作品として世に発表したものではなく、亡くなった翌年に遺品のノートの中に残されていたものです。すでに病気により寝たきりとなりながら新しい作品を手掛けていた作品の一つという見方や当時の宮沢賢治の心境や願望を書き記したものでないとも言われています。

この詩にはモデルがいて、その人と宮沢賢治との信じる宗教こそ違うものの宗派を超えた交流があったとされ、こうした生き方が宮沢賢治の理想の姿であったことから、皆さんにも考えてもらいたく、今日は朗読してみます。

## 『雨ニモマケズ』

雨ニモマケズ  
風ニモマケズ  
雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ  
丈夫ナカラダヲモチ  
慾ハナク  
決シテ瞞ラズ  
イツモシツカニワラッテヱル  
一日ニ玄米四合ト  
味噌ト少シノ野菜ヲタベ  
アラユルコトヲ  
ジブンヲカンジョウニ入レズニ  
ヨクミキキシワカリ  
ソシテワスレズ  
野原ノ松ノ林ノ蔭ノ  
小サナ萱ヅキノ小屋ニヰテ  
東ニ病気ノコドモアレバ  
行ッテ看病シテヤリ  
西ニツカレタ母アレバ  
行ッテソノ稲ノ束ヲ負ヒ  
南ニ死ニサウナ人アレバ  
行ッテコハガラナクテモイヽトイヒ  
北ニケンクウヤソシヨウガアレバ  
ツマラナイカラヤメロトイヒ  
ヒデリノトキハナミダヲナガシ  
サムサノナツハオロオロアルキ  
ミンナニデクノボートヨバレ  
ホメラレモセズ  
クニモサレズ  
サウイフモノニ  
ワタシハナリタイ

(原文)

雨にも負けず  
風にも負けず  
雪にも夏の暑さにも負けぬ  
丈夫な体を持ち  
欲はなく  
決して怒らず  
いつも静かに笑っている  
1日に玄米4合と  
味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆることを  
自分を勘定に入れず  
よく見聞きし分かり  
そして忘れない  
野原の林の下のかげの  
小さなかやぶきの小屋にいて  
東に病気の子供がいれば  
行って看病してやり  
西に疲れた母がいれば  
行ってその稲の束を背負い  
南に死にそうな人がいれば  
行って怖がらなくてもよいと言い  
北に喧嘩や誹謗があれば  
つまらないからやめろと言い  
日照りのときは涙を流し  
寒さの夏はおろおろ歩き  
皆にデクノボートと呼ばれ  
ほめられもせず  
苦にもされず  
そういうものに  
私はなりたい

宮沢賢治(現代語訳)

今回、紹介するに当たり、改めて読み直してみると、前半は、私自身もそうであればいいなあ、という人物像です。雨にも風にも雪にも夏の暑さにも負けぬで、健康で欲がなくておごったところがなく、いつも笑っている人。実際にそんな人いるのかなあ、と考えてみますが、なかなか浮かんでこないものです。

後半では、自分自身のことを省みるのではなく、いろんな人に尽くす生き方をつづっています。これもまたすごい。四方に飛び回り困っている人を助け、決して見返りを求めない。Give & Takeならぬ「Give & Give」、「For You 精神」と言ってもいいかもしれません。なかなかできることではありません。この詩には、宮沢賢治自身の、こういう人になりたいとは思っているけど、なかなかなれない自分がいるという、理想と現実のギャップから生じる葛藤も感じます。

『銀河鉄道の夜』を読んだ際にも感じましたが、宮沢賢治の理想とする生き方には、自分のことではなく、常に他人が映っているように感じます。『銀河鉄道の夜』の中では、「ほんとうのさいわい(本当の幸い)」とは何か、というのが一つのテーマでした。そして「ほんとうのさいわい」の一つの形として、他人に尽くす行為が描かれています。他人のために尽くし貢献するという、他者の幸福を大切にすること、深く考えさせられます。

だからこそ余計に、この『雨ニモマケズ』に宮沢賢治の信念や理想とする人間像が込められているような気がします。人は何も考えなくても、それなりに働いていけば、なんだかんだ生きていけます。そうした生き方もそれはそれでありなのかもしれません。それだって楽しい人生です。

しかし自分がどんな人間でありたいのか、本当の強さ、優しさとは何か、という人物像や理想を持って生きていくと、人生により張りが出てきて、生きる実感が持てるように思います。『雨ニモマケズ』はそんな生き方のヒントを示してくれる作品であり「真に強く優しく、理想的なあり方はどんなものか」と問いかけています。

今年度のスタートに当たり、春の佳き日ですが、皆さんには、雨や風、雪や夏の暑さといった、様々な困難に負けず、健康で丈夫な体と強い精神力を身に付けてもらいたいです。そして、今のうちに、世の中を生き抜く力を十分に蓄え、将来、それぞれの持ち場で、何かしら人の役に立つ生き方をしてほしいと考えます。人の役に立つ生き方をしてきた人は、その人の生きた証がその後の世代に引き継がれます。皆さんがこれからの命を大切に、そして、命を大切にすることだけに止まらず、将来、他人のことも考え、人の役に立つ生き方をしてほしい。

今後、立ちはだかる幾多の壁、挫折にもめげず、それを乗り越える知恵、方策を深く考え、より強く、逞しく成長してほしいと願っています。もしも困難に挫折そうになったときには、この詩をぜひ思い出し、力を出してもらいたいです。

今年度が、皆さんにとって大きく成長する輝かしい一年となるよう、心からエールを送り、頑張りに期待しています。

別件で、このあとの学級担任紹介で部活動顧問も発表しますので、部活動について私から説明させていただきます。

御存知のように昨年度末、運動部ではサッカー部・バドミントン部・ソフトテニス部が廃部、文化部では総合文化部が芸術部・科学部を吸収、箏曲部が廃部となりました。これは、募集学級が2学級から1学級になったことで先生方の人数も減り、部活動の運営・引率が難しくなることから、前校長先生が苦渋の決断をされました。生徒の皆さんには申し訳なく思っています。

しかし、今後一層の魅力化・特色化を打ち出していきたい。そのために何ができるかと検討し、部活動に準じた「グローバルアクト探究部」を立ち上げました。これは、グローバルとローカルな視点での探究活動、英語スピーチ・ディベート大会等への参加、ユネスコスクールとしての取組等を活性化していきたいのです。

校長講話でも話してきたように以前から佐渡中等では探究活動に熱心に取り組んできました。3年前には「中学生プロジェクト」という探究活動で総務大臣賞受賞、令和3年度から令和5年度まで文科省事業「SaGaSuプロジェクト」により島内外高校との遠隔授業や交流を深めていることを機に、地域協働の探究活動を活性化していきたいと考えます。また、英語部はありませんが、スピーコン参加者も毎年おり、英語部のような活動も活性化していきたいです。他の部活動との兼部も可とします。詳細は、4月18日の部活動紹介で担当の先生から説明していただきますので、よろしくお願ひします。

## ようこそ佐渡中等へ！ 赴任された先生方からのメッセージ

あいはら きよみ  
**藍原 清巳 先生**（国語、6年2組担任、グローバルアクト探究部）

国語科藍原です。授業も含めた学校生活の先に何があるのか、とよく考えます。それは、目の前にある事実を通して、どう考えるかということです。例えばコロナパンデミックで起きていることは、本校生徒にも、他校の生徒にも、世界のすべての子どもたち、そしておとなたちすべてに及んでいます。国語の文章であれば、日本語という言語で確かにそこに書かれた事実があります。日々のニュースであれば、例えばウクライナに関する報道から、あなたは何を考えていきますか。それを一緒に考えていきたいです。



## 今までありがとうございました！

## 佐渡中等から離任された先生方からのメッセージ

**渡邊 雄大 先生**（地歴公民、旧5年1組担任、バドミントン部）

中等には4年間お世話になりました。授業、部活動、学校行事、日常生活など様々な面でみなさんと関わり、日々共に学び、みなさんの成長を横で見ることができたのは一番の喜びです。この先も、何事にも目的意識をもって取り組み成功や失敗を経験し、時には周りに頼り、周りを助け、「大人」になってほしいと思います。中等は離れますが、気持ちは置いていきます。頑張り、中等生。ありがとうございました。



**小沢 優貴 先生**（数学、旧2年1組担任、サッカー部）

あと授業は〇回だな、部活は〇回だな、この生徒にいったいあと何回会えるのかな…と別れを意識し始めてからが本当に早く感じました。この3年間で、私は生徒たちに何を残せたかは分かりませんが、一つ言えることは、生徒たちは毎日、確実に成長していたということです。最後、佐渡を出るとき、多くの生徒が見送りに来てくれました。少ない時間ではありましたが、最高の宝物です。3年間、本当にありがとうございました。



**関口 浩希 先生**（英語、旧4年2組担任、バレーボール部）

「当たり前の反対は？」という問いに対して、書籍やブログなどでは「有り難い」とか、「ありがとう」が答えであると書かれています。佐渡中等での6年、数々の人々に支えられ、応援されて今を過ごしているという自覚を持ちましょう。

泣いたり、沈んだりするのは3月末まで。4月からは新年度です。気持ちを新たに、夢を叶える波をつかむべく、周りの人に感謝をして前に進みましょう。皆さんの活躍を祈念しております。

